

◇深 沢 義 一 君

○議長（伊藤福章君） 次に、17番深沢義一君登壇願います。

（17番 深沢義一君 登壇）

○17番（深沢義一君）おはようございます。

通告に従いまして質問をいたします。

まずもって、私の質問の趣旨は、官民一体となつての商工観光の推進を目指した友好提携からの地域活性化についてであります。

外は例年のない早い寒波の到来に、ここ数日は冷凍庫の中にいるような大変な寒さであります。心の中はホットに、新町美郷町の基礎を築いていく議員の一人として美郷町発展に向けての政策提言といった見地から質問をいたします。

まず初めに、町では旧3町村からの友好提携を引き継ぎ、旧六郷町からの東京大田区並びに茨城県つくば市、旧千畑町からの茨城県旧千代田町、現在のかすみがうら市、そして、旧仙南村と栃木県小川町、現在的那珂川町、さらには、台湾瑞穂郷との姉妹提携を結び地域間交流を続けておるところであります。

そうした中で、旧六郷町との交流からスタートした大田区との交流は、先月11月5日に美郷町として正式に友好都市提携を結び、さらには、災害時における相互応援に関する協定、いわゆる災害協定を結んだところであります。このことにつきましては、さまざまな意味での心のよりどころとして大変喜ばしいことであり、また、今後こうした提携、交流から地域の活性化につながるさまざまな可能性が生まれてくるものと思うところであります。

特にさまざまな生産、栽培を行っておる当町と人口約65万人という大消費地大田区との関係は、当町にとって経済の活性化にもつながる大変大きな財産でもあると思うところであります。さて、そうした中で、先月開催された太田ふれあいフェスタにおいては、美郷町の物産展も行われ、ほとんどのものが完売したと聞きます。今後私どもの方からの積極的なPRによって、美郷物産の拡販、あるいは、観光誘客へと結びつくものと思います。そうしたことから、3点について質問をいたします。

まず初めに、美郷物産の拡販についてであります。偶然でありますけれども、本日のさきがけの朝刊に、横手市においては、仮称地域特産品販売課の新設に向け準備室を設けて、農家所得の向上を目指すとありました。当町といたしましても、プロジェクトチームといったものを立ち上げ、経済状況の悪化の中で、少しでも所得をふやしてもらうため、あるいは生産者と消費者との直接的な交流という活力の面からも、町と関係団体、例えば商工会、JA、あるいはさまざまな作物部会などと連携をとりながら産直についてを考えてみるべきではないかと思ひます。

美郷町総合発展計画の第6章、活力あるまちづくりの中に、農林業、商工業の振興がうたわれており、地産地消とあわせ、生産者、商業者、消費者とのネットワークの構築による販売の促進とあります。米、

あるいは野菜、あるいは果実、あるいはお酒、あるいは飲料水、それぞれが毎日のように口にしているものがこの町にはたくさんあるわけであります。加えて、名水百選の清水といった他に誇れる自然の豊かさや、美しいふるさと美郷町というネーミングなど、売り込む条件は非常に整っているものと思います。

先日の議会での大田区視察訪問、あるいは個人としての見聞においては、消費地側として力を貸していただける感触を持ったところでありますし、さまざまな問題はあるにせよ、まずはこちら側からの積極的なPR、働きかけ、そして、直送やアンテナショップなどといった販売システムの構築により、道は開けていくものと思います。こうしたことについての町の取り組みを期待するものですが、町長のお考えを伺いたいと思います。

○議長（伊藤福章君） 答弁を求めます。町長登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） 深沢議員のご質問にお答えいたします。

友好提携からの地域活性化についてですが、議員ご指摘のとおり、旧3町村の地域間交流につきましては、美郷町として引き継ぎ、これまで交流を継続しているところですが、今後の美郷町の活性化を期すには、引き続き地域間交流、とりわけ環境の違う地域との交流促進は大切にしなければならないものと認識しております。そのため、美郷町総合計画に地域、国際交流の推進としてしっかりと位置づけているところです。

その中で、大田区とは行政報告でも報告いたしました、11月に友好都市提携協定の締結をいたしました。今回の大田区との友好提携は、旧六郷町と東京都大田区六郷地区とが実施してきた交流を美郷町と大田区としての交流にし、その輪を拡大するとともに町と区の絆をより深め、これまではぐくんできた友情と信頼の礎を文化、教育、スポーツ、産業などの幅広い分野の交流で一層推進し、ともに豊かな地域社会を築くために結んだものです。

その上で、ご質問の美郷町の物産の産直等についてですが、大田区との物販については、平成3年の交流開始以来継続して続けておりまして、平成5年からはOTAふれあいフェスタに参加、地元産品や特産品の販売を実施してきております。美郷町になってからも継続参加しておりますが、その販売額は年々増加し、ことしのOTAふれあいフェスタでは、販売額が178万円となっており、このフェスタをきっかけに、大田区の方々よりお米やお酒、漬物などの注文もあると伺っております。

また、大田区とだけではなくて、かすみがうら市のかすみがうら祭やふるさと会などでもこうした物販を実施しているところです。さらに、大田区関係では、現在大田区産業振興会より勤労者共済事業の一貫として、美郷町の農産品の共同購入事業を検討している旨の連絡がありました。町としてもぜひこの事業を進めてまいりたいと考えているところです。今後、農業協同組合や直売所などと対応について

協議してまいりたいと存じます。

議員がご質問の大田区との産直、あるいはアンテナショップの設置については、美郷ブランドあるいは美郷の味の売り込み、販売システムの構築をあわせて、こうした取り組みの推移とあわせて今後十分に検討してまいりたいと考えております。

いずれにいたしましても、65万人という大消費地と今回の友好協定を十分に生かすように、農業のみならず商業、観光を一体的にあわせて今後の交流について考えてまいりたいと思いますので、よろしくご理解をお願い申し上げます。

以上をもちまして答弁を終わります。

○議長（伊藤福章君） 17番深沢義一君の再質問を許可します。

○17番（深沢義一君） 一問一答で質問を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

ただいまの町長の答弁にありました、大田区からの申し出もあるということでございますので、でき得るならば定期的な物産展、あるいは産直といったことに向けたプロジェクトチームといったものの検討もこれからは必要ではないかなと、そう思うところであります。といいますのも、例えば今現在町が行っている農業者に対しての支援、例えばこれから計画しております堆肥センターということもあるわけなんです、その堆肥センターから運ばれた堆肥、いわゆる有機栽培で本当に行っているお米、あるいは野菜が美郷町ではいっぱいあるんだよ。それを大田区にどんどんPRしていくことによって、食に対する安全、安心という観点からの消費拡大にも結びつくのではないかなと、そう思うところであります。

そしてまた、それが新たな栽培や生産にも結びつくものと私は期待しますし、私ちょっと思うんですが、今の時期ですと、例えばこれから正月に向けてしめ縄、しめ飾りをつくって売り込む。例えばそれをつくるのは、これから少子高齢化の中で年配の方が例えば公民館とか体育館に集って、そこで会話をしながら楽しみながらつくってもらう。そして、売れたお金でみんなで温泉へ行くとか、あるいは孫にお小遣い、お年玉を上げるとか、そういうふうな形になれば、家庭融和にもつながりますし、これはそんなに難しい話ではないと思うんです。

どうか、そうした物販に結びつくいろいろな地域の活性化につながることを思いますので、ひとつよろしく願いしたいと思っております。

次に、産直とも関連するわけですが、観光としての誘客についてを質問いたします。

先ほども申しあげましたように、当町は自他ともに認める自然豊かな町であります。特に四季の移ろいがはっきりした中で観光客にはそれぞれの四季を十分楽しんでもらうことができるものと思います。大田区においては、同じ友好提携を結んでおる長野県東御市と静岡県伊東市にそれぞれに区の保養荘があり、多くの区民が利用しておるとのことでありました。

このことにつきましては、区で建設し、運営しておることから、PRも行き届き、周知されておるわけでありまして、我が美郷町としても三つの温泉はもちろん、パークゴルフやグラウンドゴルフ、ラベンダー園など自然豊かないやしの持てる町としてどんどんPRして売り込むべきだと思います。

また、先ほどの産直と結びつけた、春から秋までの農作業体験と組み合わせたワークホリデイ、あるいはグリーンツーリズムなども農家との連携により可能であると思います。美郷町総合計画の中の観光振興にもさまざまな到達目標が掲げられてあります。そうしたことを実現させるためにも、まずは誘客に向けたPRを町として積極的に行うべきと思いますが、町長の考えをお伺いいたします。

○議長（伊藤福章君） 答弁を求めます。町長登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまのご質問にお答えいたします。

大田区六郷地区とはこれまでさまざまな交流を実施してきておりますが、その中で観光交流は最大の交流で、これまで大田区の神輿会、六郷睦の清水まつり、樽神輿への参加や大田区六郷の高校生による雪国体験ツアー、あるいは大田区六郷地区町会の竹うち観光ツアーなどの実績があります。その際には温泉や清水など地域資源を認識してもらうとともに、都市にはない人情や風情に心のくつろぎを提供できたものと認識しております。

今後も町内3温泉などの宿泊施設を区民の休養地としてご活用いただき、さまざまな行事にご参加いただけるよう、そして、心くつろげる美郷町全体の魅力やよさを物販を通じ、あるいはホームページなどを通じ、情報発信、そしてPRしていくよう努めてまいりたいと存じます。

さらには、美郷町が大田区民の第二のふるさとになるよう、休養別荘地などに活用していただくための情報提供なども検討してまいりたいと考えております。また、春の田植え、秋の稲刈り、りんごもぎなどの体験ツアーも含めた観光交流企画を大田区や観光関係機関及び関係各種団体と協議してまいりたいほか、芸能文化などの分野でも交流を検討し、竹うちなど伝統行事に加え、新たな観点での催しもできないかということを探求してまいりたいと存じます。

以上をもちまして答弁を終わります。

○議長（伊藤福章君） 深沢義一君。

○17番（深沢義一君） ことしの夏の美郷町のポスターに「真夏のほっ」というのがありまして、あのポスターは非常にいいなと私思っております。あれがまた大田区の区民の方々も見た場合には、行きたくなるようなポスターでは、多分あったらうとそんなふうに思います。そうした情報の提供、情報の売り込みと申しましょか、どんどんやっていただきたいと存じます。

それが、これから始まるというか、もう既に始まっておるわけなんです、団塊の世代が退職を迎え、地方へいやしや、あるいは静けさを求めて当町にも来町する方はふえるものと私は思います。町長がお

っしやるような人情もあります。ホットなところで対応することでリピーターもふえるのではないかなと、そんな期待もいたします。

さて、今町長からのお話にもちょっとありましたけれども、観光誘致につきましては、もう一つお祭という面があると思います。現在町では旧町村それぞれにおいて歴史と伝統あるお祭が行われておるところであります、とりわけ、竹うちで代表される六郷のカマクラ行事は、国の重要無形民族文化財に指定されておる全国的に有名な行事であり、今月のJ R情報誌トランベールの表紙や特集にも掲載されておるところであります。

そうした祭をもっと、これ何回も言うようですが、PRすること。そしてまた、アクセスについての情報提供といったことが大変大事なことであると思いますが、今後の取り組みについていま一度町長の考えを伺いたいと思います。

また、あわせて観光客はもとより町民のみんなが楽しんでもらえるような参加型の新たなイベントも必要ではないかと思いますが、よろしく願いいたします。

○議長（伊藤福章君） 答弁を求めます。町長。

○町長（松田知己君） ただいまのご質問にお答えいたします。

竹うちについては、とりわけ都市の方々为天筆のあの鮮やかな色彩に感動を覚える、あるいは竹を打ち合うことでその熱気に感動したというふうな声を伺っております。町としてはこうした竹うちが持つ魅力をさらに理解してもらうように、今後とも各般の手段を使って情報提供、PRしてまいりたいと思いますし、また、新たな町民参加のイベントということにつきましては、地域の融和を推進するという観点でも有意義なことと思います。どうした切り口でのイベントがいいのかを、今後十分に検討してまいりたいと存じます。以上です。

○議長（伊藤福章君） 深沢義一君。

○17番（深沢義一君） 新たなイベントについては今後検討していただきたいものと思いますが、私なりに思うんですが、以前にも申し上げたことがあります、やはりここは名水百選、清水と いうことにちなんでのギネス級の流しそうめん、町民のみんなが楽しんで融和に結びつく、そうしたものも考えていただければいかがかなと、そんなふうに思います。

最後になりますが、今後の交流のあり方についてを質問いたします。

これも美郷町総合計画第5章、「人がふれ合う町を目指して」の中に、第4節に「地域間交流の促進」とありますが、今後のまちづくりにおける基本は人づくりであります。そうした観点からも積極的な交流が必要と思われませんが、今後の交流充実に向けた考えについてをいま一度お願いしたいと思います。

○議長（伊藤福章君） 答弁を求めます。町長。

○町長（松田知己君） ただいまの地域間交流の促進についてですが、大田区との子どものガーデンパー

ティー、あるいはOTAふれあいフェスタ初め、これまで交流を続けたきたかすみがうら市探検交流、それからかすみがうら祭、それからつくば市との水MIZU調査隊交流については今後精査し、美郷町全域に広げるとともに、美郷町の町民と各地域の住民の交流、あるいは児童同士の交流がより一層進展するように行政としても進めてまいりたいと考えております。

具体的には、住民交流としては、物販交流、あるいは観光交流などを通じて交流の輪が拡大することを期待しております。また、児童の交流については、交流を通じてのさまざまな学習や文通、メール交換などを通じた友だちづくりなどに結びつくことを期待しております。さらに、那珂川町につきましては、今後の交流のあり方を両町で協議、検討してまいりたいと存じます。

いずれにいたしましても、そうした交流の中で、地域間交流についての交流の目的を明確にしながら、関係機関と十分に連携をとりまして、各地域の相互の交流を推進し、ひいては住民交流の幅を出してまいりたいというふうに考えております。

以上をもちまして答弁を終わります。

○議長（伊藤福章君） 深沢義一君。

○17番（深沢義一君） 友好提携はいわばここに例えるならば親戚ということになるわけであります。

そうしたことについての町民に対してのPRもこれからはどんどん必要なことではないかなと、そう思います。そうした中で、お互いの抱える問題点についてなど協力できる面を見出しながらよりよい交流にしていきたいものと私も思いますし、町当局としてもよろしくお願ひしたいと思ひます。

「美郷がいちばん、すきです美郷」そのフレーズが町内外から沸き上がることを期待いたしまして、質問を終わります。

○議長（伊藤福章君） これで17番深沢義一君の一般質問を終わります。